
鏡

ういん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鏡

【コード】

N6238M

【作者名】

ういん

【あらすじ】

先程からずっと視線を感じている。

誰もいないこの部屋で、じっと私のことを見つめる突き刺さるような視線を。

(前書き)

若干血などの表現があります。

初めてのホラーなので出来は悪いですが、読んでもらえると嬉しいです。

見られている・・・

どこからかはわからないが、先程からずっと視線を感じる。じっと私のことを見つめる突き刺さるような視線を。

今は深夜。家族は皆静かに寝ているはず。

それに部屋の扉はきちんと閉まっている。そこから誰かが覗けるはずがない。

ならば、どこから・・・？

「まさか、ストーカーとか？」

恐る恐る窓の外を覗いてみるが、外に誰かがいる気配はない。

「ですよねえ〜。さてさて、勉強しなきゃ」

一つ伸びをして、再び机に向かうことにする。

それからしばらくは何事もなく勉強が進んでいた。

だが、数分後。またもや突き刺さるような視線を感じるようになった。

・・・気のせい、ではない。

でも、一体どこから？

堪らなく恐くなってイスに座ったまま改めて辺りを伺う。
左、いや違う。後ろ、でもない。では・・・右？

当たりだ。確かにこの気持ちの悪い視線は私の右側から感じられた。

でも、こっちは壁と鏡しかないのに。どういうこと？

その時、いやな考えが頭に浮かび、そろりそろりと鏡を覗く。
するとそこには、少し怯えた顔でこちらを見つめる私の姿が、何の
変哲もなく映っている。

「ふう・・・」

よかった。思い違いか。

そうだよ、鏡に写った自分が勝手に動くなんて、ありえないもん。
あはは、私ちよつと疲れてんのかな。

よし、あと一問終わったら今日はもう寝よう。

そう思い机に向かおうとした、その時。

さり気なく鏡を目で追っていた私は気づいてしまった。

鏡に映った『私』が、ずっとこちらを見つめていることに。

私は一気に血の気が引き、その恐怖から震えだす。すると、そんな
私をみた鏡の中の『私』は嬉しそうに頬を染めて笑った。

「う・・・そ」

そんな、そんなことって。ありえない。

ふと、囁くような声がした。

『ねえ』

それは、その声は、紛れもない私の声。

『ねえ、交換しよう』

そう言って鏡の中の私は少しずつこちらへ近づいてくる。

『私と入れ替わろうよ。こっちの世界はもう飽きたわ。あなたは私なんだから、私達が今入れ替わったって誰も気づかないわ』

「いつ、いや！こないで！私はあなたなんかじゃない」

『私はあなたじゃない？何を見て言っているの？アナタは私よ？そして私はアナタ。ほら、同じ顔、同じ声。明らかに同じ人間だわ』

『私』は尚もじりじりとこちらに近づいてきた。

『大丈夫よ。ただ、住む世界が少し変わるだけ。私は外へ、そしてアナタが鏡の中へ』

ついに鏡の真ん前に来た『私』はゆっくりとした動作で腕をこちらへ伸ばしてくる。

その伸ばした腕は鏡面をすり抜け、まるで水の中から出てくるかのようになり、こちらへ出てきた。

『さあ、変わりましたよ?』

「いつ、いやああーっ!」

私はとつさに近くににあった置き時計を鏡に投げつける。
すると……

『ぎゃあああああ』

パンツ！ ポトリ

時計が鏡にぶつかりそこから全体にヒビが入って、粉々に、割れた。そして、その破片の上に乗っていたモノは……

血で赤く染まった、先程こちらへ伸ばされた『私』の腕。

「あっ！うっ・・・」

気持ちが悪くなってとっさに口元を押さえる。その時。

っ！イッタア！！！！

ギリリツと腕に走る痛み。

ま、さか。

ゆっくりと腕へ目をやると、そこには・・・

先を切り取られた、血濡れの腕があったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6238m/>

鏡

2010年10月10日02時09分発行